

# シラバス

教 科	科 目	単位数	学 年	コ ー ス	組
国 語	N 古 典	4	3	文系GA	1・2・3・4・5組

教科書	「精選 古典探究 古文編」(三省堂) 「精選 古典探究 漢文編」(三省堂) 「古典 グレートラーニング レベル3」(尚文出版)	副教材	「読解を大切にする 体系古典文法」(数研出版) 「基礎から解釈へ 漢文必携」(桐原書店) 「読んで見て覚える重要古文単語315」(桐原書店) 「入試頻出 新国語問題総演習」(桐原書店)
-----	---	-----	---

科目の目標	1. 古典を幅広く学び、言語文化に対する理解を深めることで、より多角的な思考力を養う。 2. 古典を幅広く学び、文章を読み取る能力を深めることで、より分析的な思考力を養う。 3. 問題集を用いた問題演習に取り組むことで、大学入試レベルの思考力(文章を読む力・問題を解く力)を養う。古文の単語や文法、漢文の用字や句形などの知識を身に付け、より発展的な思考力を養う。
-------	---

科目の概要	多種多様な形態の古典を題材とする。それにより、日本の伝統的な言語文化に対する理解を深めたり、文章から先人のものの見方、感じ方、考え方を読み取る能力を深めたりと、言語や文章に基づいた思考力を向上させる。 また、問題集を用いて問題演習を実施し、大学入試に向けて実力養成を図る。
-------	---

観点別評価			
3 観点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知識・技能」 ⑥「受信・発信力」 ⑨「自己管理能力」	②「課題対応力」 ③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑥「受信・発信力」	②「課題対応力」 ⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」 ⑩「自己実現力」
観 点 の 評 価	● 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができたか。 ● 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができたか。 ● 古典の表現の特色について理解を深めることができたか。	● 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができたか。 ● 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえて、古典の作品の価値について考察することができたか。 ● 古典の作品について、その内容を自分の知見と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。	● 古典の作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。 ● 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、日本の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。
評 価 の 方 法	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学年末の総合成績をもって評価する。	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学年末の総合成績をもって評価する。	○授業内・外での学習活動等 ○課題への取り組み・提出状況 以上をもとに、各学期末の平常点で評価する。
定期試験、および授業内外での課題等を総合的に判断して評価する。			

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 ( 単 元 )	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	【古文】1『十訓抄』助動詞①（自発・尊敬・使役など） 2『発心集』助動詞②（過去・完了） 3『花月草紙』助動詞③（推量） 4『毎月抄』助動詞④（推量・推定） 【漢文】25『説苑』反語形／仮定形／受身形 26『蒙求』否定形／反語形 27『世説新語』疑問形 【1学期 中間試験】 5月20日～23日	●問題演習を通して、読解力を鍛えるとともに、解法の要領を学ぶ。 ●文章を読み解くための基礎知識を確認する。 【古文】古語単語について、文脈にあった意味をつかめるよう、繰り返し練習する。 【漢文】漢字についての知識を身につけ、漢文特有の読み方をする漢字や、一字で複数の意味をもつ漢字を確認する。
	【古文】5『三冊子』助動詞⑤（願望・断定・比況） 6『古今著聞集』助動詞⑥（打消・打消推量） 7『大鏡』助動詞のまとめ 8『栄花物語』助詞①（格助詞） 【漢文】28『新序』疑問形／使役形 29『虞美人』反語形／再読文字 30『荀子』詠嘆形／仮定形 31『十八史略』詠嘆形／仮定形 ※進度や状況に合わせて、1・2年次の学習内容を復習する。 【1学期 期末試験】 7月1日～5日	●問題演習を通して、読解力を鍛えるとともに、解法の要領を学ぶ。 ●文章を読み解くための基礎知識を定着させる。 【古文】文法について、まぎらわしい語の識別や、敬語法など、知識の抜けがないよう、繰り返し練習する。 【漢文】主語（誰が・何が）、述語（どうした）を確認しながら文章を読み取るよう、繰り返し練習する。
2 学 期	【古文】9『水鏡』助詞②（接続助詞） 10『今鏡』助詞③（副助詞・係助詞） 11『太平記』助詞④（終助詞・間投助詞） 12『日本霊異記』助詞のまとめ 【漢文】32『日本外史』反語形 33『東都賦』限定形／反語形／比較形 34『春秋左氏伝』再読文字／使役形 【2学期 中間試験】 10月15日～18日	●問題演習を通して、読解力を鍛えるとともに、解法の要領を学ぶ。 ●入試レベルの読解力と応用力を強化する。 【古文】重要語句や文法事項に着目しながら文章を読み取るよう、繰り返し練習する。 【漢文】句法事項についての知識を身につけ、訓読や現代語訳ができるように確認する。
	【古文】13『紫文要領』識別①（ぬ） 14『雨月物語』識別②（なり・なる） 15『西鶴諸国ばなし』識別③（に） 16『蜻蛉日記』識別④（らむ） 【漢文】35『唐才子伝』再読文字 36『読孟嘗君伝』反語形 37『論衡』限定形 38『莊子』累加形 ※進度や状況に合わせて、過去問対策などを行う。 【2学期 期末試験】 12月2日～6日	●問題演習を通して、読解力を鍛えるとともに、解法の要領を学ぶ。 ●入試レベルの読解力と実践力を拡充する。 【古文】作品の主題や表現の特徴に注目しながら読み取るよう、本質をとらえることを意識して練習する。 【漢文】大学入学共通テストレベルの文章を短時間で読み取るよう、スピードを意識して練習する。
3 学 期	《特別編成授業》 ・生徒の希望・志向をもとに「受験古典」と「教養古典」の2科目編成でそれぞれ授業を行う。	《特別編成授業》 「受験古典」では一般受験の生徒の要望を考慮した読解力と設問解答力の増強を図る。 「教養古典」では普段の授業では成し得ない、伝統文化・教養としての古典作品を味わうとともに、先人のものの見方や考え方を学ぶ。